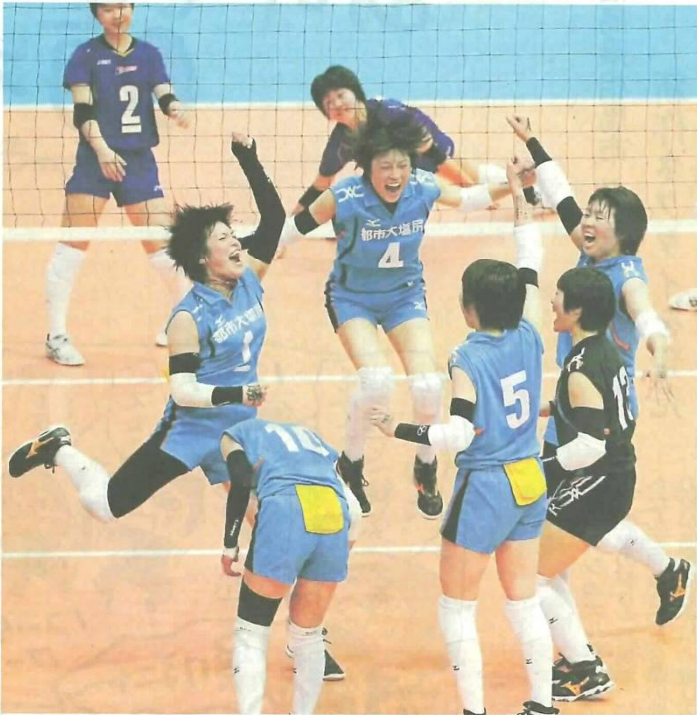


都市大塩尻(女)4強



高松商を破り準決勝進出を決め、大喜ぶする都市大塩尻

粘りのバレー 壁突き破る

全国中学大会でチームを優勝に4度導いた岡田監督が就任し、創部5年目。前回大会、全国高校総体、単独チームで出場した国体はいずれも16強止まりの都市大塩尻が、ついに壁を突き破り一気に4強入りを果たした。

「もう少し早く8強や4強に入らなかったが、大事なところでやっとならなくて、完璧とは言えないが、いい試合ができた。福花中学時代に全国優勝を経験している主力の3年生が迎えた最後の大会。指揮官は加速するチームの勢いに手応えを感じ取った。

全日本ユース代表を2人擁する大和南との3回戦は、国体の雪辱戦だった。リードしながら追いつかれた第1セットは、26-27から2年生エースの高相が3連続得点。後手に回った第2セットを落としたが、最終セットは窪田のフエントやサーブエースなどで5連続得点と最高の滑り出しで押

し切った。コンビバレーを身上とする似たタイプの高松商との準々決勝でも第1セットで真骨頂を發揮。21-24とセットポイントを握られても弱気ならず、最後は高相が3連続得点で締めた。昨年の高校総体、国体で競り負けた苦い経験を糧に、チームの粘り強さは本物になった。

サーブで狙われながら踏ん張り続けた高相は、準々決勝の終盤は脚がつりながらもコートに立ち続けた。「きれいに決めようと思わず、思い切り打つことだけを考えた。満足いくプレーを求めたのではなく、1点を取ればいい」。がむしゃらに攻め続けた結果だ。

「自分たちの目標は日本一しかない」と主将の牧田は言い切る。豊富な経験を基にしたチームの完成度は高まっている。岡田監督は「やっとならなってきた。まだライトの調子が上がらないが、それはあと2試合にとっておきましよう」と総仕上げにかかる。(小平 匡谷)

全日本高校バレー

バレーボールの全日本高校選手権第3日は7日、東京体育館で3回戦と準々決勝が行われ、県代表は女子の東京都市大

塩尻が3回戦で昨年の国体4強の大和南(神奈川)を2-1の接戦で下し、準々決勝は高松商(香川)を2-0で破った。2009年度まで全国高校総体と兼ねていたこの大会で、女子県勢の4強入りは04年度の東海大三に並び過去最高。11日の準決勝で高校総体覇者の東九州龍谷(大分)と対戦する。

男子の創造学園は3回戦で昨夏の全国高校総体4強の駿台学園(東京)に2-0で快勝したが、準々決勝は鹿児島

男子で2連覇を狙う星城は準々決勝で開智(和歌山)に2-1で逆転勝利し、雄物川は前回準優勝の大塚(大阪)に2-1で競り勝った。女子で東九州龍谷は鹿児島女にストレート勝ちした。

成徳(東京)は3回戦で	▽男子3回戦	▽女子3回戦
が、前回優勝の下北沢(京都府)に0-2で敗れた。	創造学園 2-2525	駿台学園 2-25329
	▽同準々決勝	大塩尻 2-252329
	鹿児島 2-2525	大塩尻 1-182527
	2322	大和南(神奈川)
	創造学園	▽同準々決勝
	東京都市 2-2526	高松商(香川)
	大塩尻 1-1724	

この記事・写真等は信濃毎日新聞の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会